

台湾を中国領と誤記する 検定通過の高校地図帳

本誌編集部



台湾の東側に国境線が引かれている二宮書店の地図帳

高校地図帳も中学校と同じ表記

去る三月二十九日、文部科学省は高校教科書の検定結果を公表した。

今回の検定の特徴は、検定意見で領土の記述を明確にするよう指導し、修正が相次いだことだ。「地理歴史、公民（地図を含む）の両教科で領土をめぐる記述のうち四六％に当たる、北方領土十六カ所▽竹島二十カ所▽尖閣諸島二十四所の計六十カ所に『我が国の領土であることが理解しがたい表現』などの検定意見がついた」（三月三十日付「毎日新聞」という）。

しかし、本会は昨夏より、台湾を中国領と誤記する中学校の地図帳（帝国書院・東京書籍）を問題視し、その是

正を求めてきたが、今回の検定をパスした高校地図帳も中学校地図帳とまったく同じ誤りを犯している。

高校の場合は、三社から次の五冊の地図帳が発行されている。

『地歴高等地図―現代世界とその歴史的背景―最新版』（帝国書院）

『新詳高等地図 初訂版』（帝国書院）

『詳解現代地図』（二宮書店）

『基本地図帳改訂版 世界と日本のいまを知る』（二宮書店）

『新高等地図』（東京書籍）

帝国は「台湾は中国領」と断言

この五冊の地図帳はすべて、台湾と中華人民共和国の間に国境線が引かれておらず、国境線は太平洋側とバシー

海峡に引かれている。また、資料もほとんどが『中華人民共和国地図集』などをそのまま転載しているため、台湾が中国の一部とされている。

そこで、帝国書院に連絡を入れたところ、担当編集者は「台湾は中華人民共和国の一部で間違いない」と、ためらうことなく断言した。そこで「しかし、地図帳で台湾は中国の省扱いされていないが」と重ねて聞くと「中国の一部ではあるが、統治の及んでいない地域」だと明言。同社は中学校地図帳でもまったく同じ返答をしている。

一方、二宮書店は「中国は台湾省と見ているが、中華民国も主権国家と言っているのだから、両方に対処している。近隣諸国でもあるし……。中国の省名は赤字のゴシックで、台湾は墨で明朝にしている」と、慎重な返答だった。

しかし、日本政府は台湾が中国領だとは認めていない。執筆者、出版社、文科省には、改めて政府見解に則った表記を求めてゆきたい。